プロメテウスの罠（わな）　明かされなかった福島原発事故の真実　目次

はじめに　2

本編に登場する主要な人物及び地域に関する地図①～③　9

第一章　防護服の男　14

どこへ逃げれば安全か、誰も教えてはくれなかった

頼む、逃げてくれ／深夜、もっと遠くへ／なぜあんな格好を／殺人罪じゃないか

無人となったふるさとへ、再び帰れる日は来るのか　23

私、死んじゃうの？／ハエがたかっていた／早く東京へ来なさい／「ふるさと」歌えない／初めは言えなかった／口止めされた警察官／あの二人のおかげで／区長は逃げなかった／自宅裏は荒れはてた

第二章　研究者の辞表　42

住民は本当の数値が知りたかった

測定、まず僕が行く／家人には一切言わず／雨がっぱとゴム長／「これは棄民だ」／放射線量も赤裸々に／車から出てこいって／教えない、貸さない／「箝口令」と呼ぶ文書／暴力団からスカウト／伝える、それが救う道

全く生かされなかったSPEEDIのシステム　60

ピンポイントの指示／いきなり同心円避難／送られなかった167枚／二つの「やらねば」／官邸独断、室内は騒然／「目の前にいたんだ」／来なかった官僚たち／置き忘れたファイル／「布団かぶれーっ」／「世界で初めてです」／いつの日か田植えを

第三章　観測中止令　84

異常な放射能数値を示すさなかの観測中止令

突然、本庁から電話／無視して採取続けた／放射能「高すぎる！」／せっぱつまった事情／まさかそれが日本で／ネイチャーに出そう／削除してくれないか／センセーショナルだ／所長が謝ってほしい／自分はしゃべれない

国会議員の登場で状況一変 103

予算どうなってるの！／誰が気象研を教えた／どこの機関から何が／「文科省」45分で16回／責任は負いたくない

第四章 無主物の責任

広島・長崎の内部被曝の悲劇が繰り返される可能性 114

誰のものでもない／原爆のときよりひどい／被曝者の先輩として／不思議な死に方／「だるい」ピンときた／国は切って捨てた／先生二人、話は正反対／私たちには全部実害

首都圏にも広がる内部被曝の不安 129

我が子の鼻血、なぜ／自力で測ってみると／おおっぴらに言えぬ／福島の子たちが心配／自分で守るしかない／被曝から目そらすな

第五章 学長の逮捕

チェルノブイリ周辺では、今も続く子どもの甲状腺異常 142

エリート医師が突然／研究やめるわけには／体から放射能を抜く／免疫力、異なる見解／森のキノコ食べても／日本より厳しい基準／たった1台で検査／輸入品、すり抜けて／規制値、食器にまで

態勢の整わない放射能の検査システム 160

検査、提案したら／給食を確かめたい／同じ一家、異なる値／学校で毎日飲むもの／自分たちで測るんだ／「逆に不安招くから」／検査してもらえない／不具合を抱えたまま／お前ら寝るな、休むな／調べたい、金がない／提案を断った福島県／最新式との差は10倍／「日本には技術ある」

第六章 官邸の5日間

「撤退を食い止めるには東電に乗り込むしかない」 188

米軍には伝えていた／誰からも答えがない／「武器が足りません」／残っていただきたい／まだやれますね／総理の判断を仰ごう／外国に侵略されるぞ／また怒られるんだよ／18分間の会談／皆さんは当事者です／超スーパーマンなら／手伝ってくれないか

首相官邸のいちばん長い日 213
響き渡る「電源喪失」／「制御できなくなる」／「経済学部ですけど」／急きょ発令した人事／原発の図面すらない／テレビと記憶が頼り／「ベントが必要です」／電源車を集めろ／1号、ベントに入る／なぜ、できないんだ／爆発、ゼロではない／「しっかり伝えて」

決死隊をつくってでも 237
「いいから早く！」／まるで野戦病院／ベントはしたが／爆発、「放送しよう」／「あちゃあ」という顔／無理をしてでも来て／いや、ぼくは行くよ／「炉へ海水注入せよ」／次の手、提案がない／竹竿でも突っ込んで／過去、おれは語らない

福島第一原子力発電所事故全記録 260

おわりに 266